

# 所 属 長 会

1 日 時 令和5年10月18日（水）14：50～15：05

2 場 所 屋上階（P1）会議室

3 出席者 市長、副市長、所属長

4 議 題

(1) 大阪・関西万博の機運醸成について

(2) その他

5 会議要旨

## 【議題（1）】

(大阪・関西万博の機運醸成について)

彌園万博推進局長より別添資料「大阪・関西万博の機運醸成に向けた PR 重点期の取組み」の説明

高橋副市長：

機運醸成については、万博協会あるいは経済界といった機運醸成委員会のほうでオールジャパンでの取組みをされているが、地元大阪の PR においては、各区・所属において、区民まつりなどのさまざまなイベントなどを通じて市民・区民への PR、これを引き続きしっかり願います。

1点確認だが、横浜市では、2027年に国際園芸博覧会が開催される。そこで横浜市との機運醸成に向けた連携などの検討状況がもしあれば教えていただきたい。

彌園万博推進局長：

横浜市においては、2027年に園芸博を開催される。大阪市と横浜市の連携については、市長にも指定都市市長会の際に横浜市長とお話しいただき、高橋副市長にも横浜に足を運んでいただいたところ。すでに、例えばポスターやデジタルサイネージのデータを交換することによって、お互いの万博・園芸博を PR していこうという動きにもなっており、今後は、具体的に横浜市のほうも関係法人を設立し、さらなる啓発に向けてさまざまなグッズを作っていくと聞いている。そういったグッズを私どものほうで開催する万博 PR イベントなどで PR することによって、横浜のイベントでも相互に協力して PR に努めていくということで調整を進めている。

朝川副市長：

私も今、区民まつりによく伺っており、職員がのぼりを立てたり法被を着て、区民の方も万博のTシャツ着られたりされている。関係所属がよく連携してシティドレッシングしていると思う。これからチケットの発売も始まり、万博に行ったら何があるのかなと思っている市民の方も結構おられると思う。最近では、各民間企業や外国のパビリオンのパスや概要が徐々に発表されており、そのあたりの情報を、例えばホームページで集約をするなど、大阪市としても万博に行ったらどんなワクワクするようなことがあるのか、そういった情報発信の強化もこれからは必要だと思うが、そのあたりいかがか。

彌園万博推進局長：

万博会場内ではリングの建屋の工事も始まっており、民間企業のパビリオンも起工式を順次催す中で準備も進んでいる。加えて、我々の地元が出展する大阪ヘルスケアパビリオンも着々と工事が進んでいるので、そういった動きの最新情報を皆さまにPRすることで、万博の機運醸成につながり、また、万博開催が近づいてきたと感じていただけたらと思う。先だって大阪府市のホームページの中に新しくWEBサイトを立ち上げたので、そこでイベント情報であるとか、万博で動いている最新の情報を集約して発信していきたいと考えている。

朝川副市長：

市のホームページも充実させてもらいたい。各区のホームページも区民の方が見ておられるので、それもリンクしていただき、動画などもあれば、区役所の住民情報の窓口にあるテレビジョンで映すことによりPRできると思うので、いろいろと連携して進めていただきたい。

横山市長：

今の取組み状況について説明があったが、これから3つあるPR重点期のまさに1回目を迎え、いよいよ万博開幕500日前となる。前売り券の販売も開始され、機運醸成が今回、喫緊の課題だと思う。12月まで、官民が一体となって、万博関連のイベントやシティドレッシングなど、集中的なPRに取り組んでいく。

先ほど副市長からもあったが、私も各区の区民まつりに伺っており、区の職員は勿論のこと、地域の方も一生懸命PRいただいている。どこの区も非常に必死にPRしていただいているので、こういった取組みを繋げていけるように、情報を繋げていけるようにしてほしいと思う。ネガティブな情報が回り出すと、住民の皆さまも不安になるので、万博の本来の主旨やメッセージ、そしてちょっとしたイメージを発信するだけでも、住民の皆さまが想像しやすく、プラスのイメージを持っていただけたらと思う。こういう時期だからこそ、今一度本来の主旨に立ち返って、子どもたちに夢を与えて、2025年を50年後・100年後に繋げていくという非常に重要な機会なので、創意工夫して、官民連携して、あらゆる手段をとって、PRに努めていただきたい。よろしく願います。

## 【議題（２）】

（その他）

横山市長：

この機会に、不適切な事務処理等が続いている件に関して、私から一言申し上げます。

この間、公文書公開請求で不存在としていた公文書が、外付けハードディスク内から発見される事案や、自立支援給付等の利用者負担上限月額の設定を誤る事案があった。これらは市民生活に深刻な影響を与え、市政への信頼を大きく損ねることに繋がる大変重大な事案だと思っている。

先ほど市会に提出した「令和４年度大阪市内統制評価報告書」の特記事項にも記載しているが、組織的な進捗管理体制や進捗管理方法の構築、事務処理方法の担当者への周知・徹底が不十分であり、その要因は、残念ながらマネジメント不足が非常に大きいと考える。

本日報道発表した事案として、過去の買入契約において、議決を要するにもかかわらず、議決を経ずに事務を複数回進めていたことが判明した。法令等に対する知識・理解が不足していたことなど、マネジメント不足が根底にあるものと思われる。

市政にかかる重要な案件は、二元代表制の一翼を担う市会に対して、適切な時期に丁寧かつ十分な説明を行い、理解を得て進めるべきもの。今後、一般決算や来年度予算など、重要な議論をしていくこととなる。市会から説明不足等と指摘されることのないよう、十分に注意していただきたい。

各所属長には、まずは一度振り返りを行い、今後の改善に繋げるとともに、管理職員一人ひとりが自分の立場や職責を理解し、職階に応じた職務を果たし、適切な組織マネジメントを行うことを、所属長自ら指導するようお願いする。

特に今回、市民や市会の信頼を損なう事案が生じた所属もあると思う。組織マネジメントの点で、様々な問題があると考えられるので、所属長が先頭に立って、今回の事案が生じた原因を十分に解明した上で、再発防止の徹底をよろしく願います。

決して他の所属の問題とすることなく、各事案を共有して、こういった事案がくれぐれも発生することのないようお願いしたい。

市民の皆さまは市役所・区役所を信頼して生活されている。これを裏切ることになると、市政運営そのものに大きなダメージとなる。今後、万博などの大きなイベントもあるので、今一度マネジメントを徹底し、市民の皆さまの信頼を損ねることのないように、また、市民の皆さまと共に進んでいけるよう、改めてよろしくお願いする。